



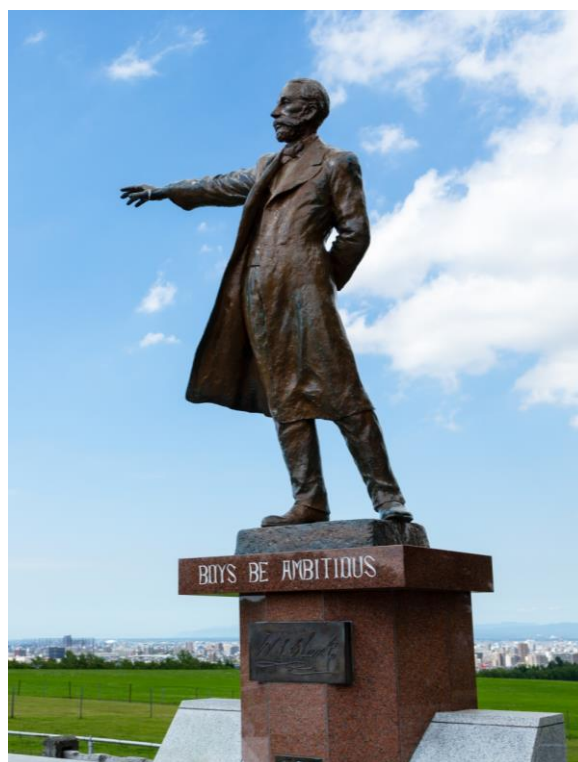
# 日本国際教育学会

## JIES NEWSLETTER

February 2021 No. 32

### ニューズレター ダイジェスト

- 学会長挨拶
- 第2回学会賞・奨励賞
- 2020年度総会報告
- 『国際教育』第27号原稿募集
- 第31回研究大会のご案内
- 第3回学会賞・奨励賞候補作の募集
- 研究発表会のお知らせ
- 若手・留学生の研究交流会のお知らせ
- 2020年度学会役員一覧
- 事務局だより



2021年度 第31回研究大会 開催地  
北海道札幌市の風景より



## 学会長挨拶

次の30年に向けて

佐藤千津（国際基督教大学）

昨夏の役員改選により、第31-32期の会長を拝命いたしました。3期目となりますが、学会の更なる発展に向け、気持ちも新たに全力で務めさせていただきます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、それまでの日常が一変しました。いまなお世界各地で感染拡大が続き、日本国内においても緊急事態宣言が発出された状況にあります。何事もなく過ぎていく平和な日々が、実はかけがえのないものであったことに改めて気づかされた1年でもありました。

その2020年に本学会は創立30年の大きな節目を迎えました。1年前のニューズレターを見返すと、創立30周年を記念する企画の文字が並び、華やいだ雰囲気すら醸し出していますが、その後の感染拡大により、それらの企画も延期や変更を余儀なくされました。収束の見通しが立たないなか、30周年記念大会を1年延期とし、総会も文書による報告・審議に開催方法を変更しましたので、会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

その失速を挽回しようというわけではありませんが、昨年8月に発足した新しい理事会体制により、コロナ禍での学会活動の在り方を改めて検討し、いくつかの新たな企画をまとめるに至りました。

まず、紀要第27号では通常原稿募集に加え、「特別企画 コロナ禍における世界の教育とSDGs」と題して投稿原稿を募集することになりました。次に、3月にはオンラインによる研究発表会や研究交流会を連続して開催いたします。今年の前半には、こうした研究発表や交流活動の場を新たに設けておりますので、皆様の積極的なご応募とご参加をお願いいたします。

今秋の第31回大会は会場を北海道大学に変更して開催する計画です。まだ先が見通せませんので、開催の可否や方法は4月頃に最終決定し、ご案内させていただく予定です。今年こそは北の大地で多くの皆様と再会を喜び合い、以前と変わらぬ実り多い研究大会が開催できますことを切に願っております。

また、昨年は第2回学会賞の授与が決定しました。奨励賞は2年前に授与されておりますが、学会賞は初めての授賞になります。次の第3回学会賞・奨励賞候補作の募集も2月に始まります。自薦・他薦を問いませんので、奮ってご応募ください。

最後に、本学会には若手研究者が多数所属しております。今期は学会事務局をはじめ、理事や各種委員会委員として多くの若手会員が学会運営に携わっております。その活力に期待するとともに、そうした活動を通じて会員の皆様のニーズを学会運営に的確に反映させながら、未来につながっていく魅力のある学会活動を推進していければと考えております。

学会の次の30年に向け、今年も皆様と充実した時間を共有できましたら幸いです。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第2回 学会賞・奨励賞

日本国際教育学会第2回学会賞・奨励賞の選考結果について

学会賞・奨励賞選考委員会委員長  
岩崎正吾（首都大学東京・名誉教授）

日本国際教育学会の第2回学会賞・奨励賞の応募を行い、他薦による学会賞の応募が1件ありました。これまでの学会賞・奨励賞選考の経緯に少し触れると、審査の論点は審査基準以外にも多岐にわたりました。とりわけ「日本国際教育学会らしさを何ではかるか」が議論となりました。自然科学分野ですら、近年、隣接諸科学の境界はかなり交錯したものになっており、教育学においても、例えば比較教育学会、異文化間教育学会、国際理解教育学会など、教育と銘打った学問分野との峻別も難しくなっています。しかしながら、「国際」と銘打った学会である以上、一地域のケーススタディーにとどまってしまい他の地域、あるいは文化、教育に対する「一般化」「普遍化」の視点や方法論の欠如したものは学会賞にふさわしくないとする見解がある一方で、一カ国、一地域を扱ったものでも、国際教育の研究に資すると判断されれば対象となるとする見解などもありました。これらの点については審査員各自が独自に判断することになりました。

第2回学会賞・奨励賞は審査員5名による厳正な選考の結果、次の著書に対して授与が決定されました。

前田耕司著『オーストラリア先住民族の主体形成と大学開放』明石書店、2019年8月、A5版236頁。

本書が授賞に値すると高く評価された要点はおよそ以下の通りです。

本書は、オーストラリアの大学における先住民族アボリジナルの主体形成を意図した能力開発・専門職養成の分析を通して、日本の先住民族アイヌとの比較の観点から、国際的にも共通する課題解決の諸論点を明らかにし、取り組みの課題を解明している。本書における比較分析の指標は、主要には「先住民族の権利に関する国際連合宣言」であるが、当該宣言を無批判に依拠することはせず、その批判的視点を含みつつ規範的枠組みとして考察し、先住民族への大学開放の意義と組織化のメカニズム原則を実証的に明らかにしている。研究方法として、国連やILOなどの国際機関や国際法の動向分析と関連させつつ、ポストコロニアルの比較研究の手法を用いて、オーストラリアの先駆的实践・研究からの問題の解明を意図している。また、現地の研究者や専門家の協力を得つつ、文献研究だけに留まらず、対話的構築主義のアプローチに基づき実証的に解明している点にその獨創性が認められる。

本書は、参与観察を行いつつも基本的にはオーストラリア高等教育の実務を担わない国外からの視点に特徴づけられており、オーストラリアの事情のみを知るオーストラリア人研究者にはできないことを実施している。その最たるものが、地域研究の高度化版として社会科学の研究者に知られるオーストラリア国立大学の日本史研究者テッサ・モーリス・スズキが提唱する2国間の社会課題を共有する対話的地域研究である。本書ではアイヌの主体形成とアボリジナルの主体形成との対話的研究が模範的になされており、圧巻の一語に尽きる。

本書における課題としては、オーストラリアではアボリジナルを包摂する「結果の平等」への道が開かれているのに、日本ではなぜアイヌ民族についてそういう方向に行こうとしないのかを、社会科学的な枠組み、とりわけ政治・経済的観点から分析することが必要である。

第3回学会賞・奨励賞の応募も始まります。会員の皆さんには、以上のような授賞著作の評価や課題及び審査の議論などを踏まえて、果敢に挑戦されることを希望します。

第2回日本国際教育学会賞  
学会賞を受賞して

前田耕司（早稲田大学）

2020年という学会創立30年の節目の年にこのような名誉ある賞を頂きましたことを感謝申し上げます。

拙著は、国連が2007年に宣布した「先住民族の権利宣言」を国際的な規範的枠組みとして、「権利宣言」の宣布以前と宣布以後でオーストラリアの高等教育政策にどのような変化が見られるのか。自由な語りを主体とするライフストーリー分析による半構造化インタビュー調査と参与観察を用い、対話的構築主義のアプローチにより検証を試みたものです。

拙著の着想にあたっては以下の二つの点が大きく影響しています。一つは、Visiting Research Fellowとしてメルボルン大学に滞在した1993年にさかのぼります。国連の定めた「世界の先住民（族）の国際年」とも重なり、オーストラリアは「無主地」（テラ・ヌリウス）だったという従来の考え方を覆す連邦裁判所の裁定を受け、在豪中の1993年に先住権原法（Native Title Act）が成立するという画期的な出来事に遭遇しました。オーストラリアンなどの新聞各紙が、連日、この問題を大きく報じていたのを記憶しています。とりわけメルボルン大学内にある先住民族支援室の機能に関心を持つようになり、ビクトリア州を起点に、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州、ノーザンテリトリー、サウスオーストラリア州と、オーストラリアを左回りにほぼ半周し、州内の各大学の先住民族支援室で聞き取り調査を行いました。高等教育を享受できないでいるアボリジナルに光を当て、彼/女らに対していかに大学を開放していくかといった社会的公正の視点に立った各大学の取り組みとその支援に至る過程は、ケンブリッジ大学によって始められた大学拡張運動の原点に重なって見えました。

その後、しばらく学内の改革に翻弄され、本研究も一時中断を余儀なくされますが、2015年に再び在外研究のチャンスが訪れ、Visiting Scholarとして滞在したモナシュ大学で、「権利宣言」宣布後の先住民族教育・研究における変化を目の当たりにします。これが二つ目の影響です。Monash Moodleへのアクセスや参与観察を通して、先住民族の教員・学生が主体となる教授・学習が組織化され、さらにはアボリジナルを研究の主体に位置づける仕組みが構築されているという知見が得られました。こうしたポストコロニアルの視点から先住民族主体の高等教育政策について考察したのが拙著の後半部分です。帰国後、申請したAustralia-Japan Foundationから出版助成が得られこともあり、このような形にまとめることができました。

しかしながら、積み残した課題もなくはなく、今後はこの栄誉を心に刻み、より一層精進してまいりたいと思います。

## 2020 年度 総会報告

日 時：2020 年 9 月 21 日（月）～10 月 21 日（水）

開催方法：文書による報告・審議（メール審議）

2019 年度第 4 回理事会決定に基づき、今年度の総会は文書による報告・審議とし、開催方法について 8 月 10 日に全会員へ通知を行った。そのうえで 9 月 20 日に学会事務局から全会員へ総会資料を配信し、1 か月の質問・意見を受け付ける期間を設けた。配信より 1 か月後までに質問及び意見ともに提出がなかったため、「日本国際教育学会規則」第 5 条 3 の規定に基づき、本決議とみなし、すべての議題が原案通りに承認された。

### I 報告事項

1. 2019 年度（2019 年 8 月 1 日～2020 年 7 月 31 日）会務報告
  - (1) 学会（会員数）の現況【資料 1】
  - (2) 2019 年度活動報告【資料 1】
  - (3) 2019 年度決算報告【資料 2】
2. 2019 年度会計監査報告【資料 2】
3. 各種委員会報告
  - (1) 紀要編集委員会【資料 3】
  - (2) 学会賞選考委員会【資料 4】
  - (3) 紀要電子化推進委員会【資料 5】
  - (4) 学会創立 30 周年記念論集編集委員会【資料 6】
4. 第 31-32 期役員選挙結果【資料 7】
  - (1) 役員選挙の実施及び選挙結果
5. 第 31-32 期理事会体制【資料 8】
  - (1) 新役員及び会務分掌
  - (2) 事務局組織
6. 第 31-32 期各種委員会組織【資料 8】
7. 研究大会における自然災害等への対応に関する申し合わせの策定【資料 9】
8. その他

### II 審議事項

1. 会計監査の選任について【資料 10】
2. 2020 年度（2020 年 8 月 1 日～2021 年 7 月 31 日）事業計画【資料 11】
  - (1) 2020 年度活動計画（案）
  - (2) 2020 年度予算（案）
3. 第 31 回研究大会の開催について【資料 12】

4. 学会規則（第 13 条「学会所在地及び取扱い金融機関」）の改正について【資料 13】
5. その他

【配付資料】

- 資料 1 2019 年度（2019 年 8 月 1 日～2020 年 7 月 31 日）会務報告
- 資料 2 日本国際教育学会 2019 年度（第 30 期）会計決算報告
- 資料 3 総会報告資料
- 資料 4 学会賞・奨励賞選考委員会報告
- 資料 5 紀要電子化推進委員会報告（2020 年度総会資料）
- 資料 6 学会創立 30 周年記念論集の編集について
- 資料 7 日本国際教育学会選挙管理委員会報告
- 資料 8 日本国際教育学会 第 31-32 期理事会・各種委員会等
- 資料 9 「研究大会における自然災害等への対応に関する申し合わせ」について
- 資料 10 第 31-32 期会計監査の選任について（案）
- 資料 11 日本国際教育学会 2020 年度（2020 年 8 月 1 日～2021 年 7 月 31 日）活動計画（案）
- 資料 12 日本国際教育学会第 31 回研究大会（2021 年）の北海道での開催について
- 資料 13 「日本国際教育学会規則」改定（案）

## 紀要『国際教育』第27号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第27号(2021)の発刊に際し、例年通り、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします(2021年3月1日必着)。

加えて、『国際教育』第27号では、メーリングリストを通してお知らせしましたように「特別企画 コロナ禍における世界の教育とSDGs」を設けております。特別企画では、速報性を重視した調査報告や教育情報、資料紹介という形での原稿を募集します(2021年4月1日必着)。原稿の形式は、学会ホームページおよび学会誌記載の投稿要領のなかの「調査報告、教育情報、資料紹介」に準じます。

詳しくは本学会公式ウェブサイト(<http://www.jies.gr.jp/>)トップページの「トピックス」および、「学会紀要」のページで最新情報をご確認ください。会員の皆さまの積極的な応募をお待ちしております。

## 第31回研究大会のご案内

大会実行委員長 玉井康之(北海道教育大学釧路校)

2020年の研究大会は、コロナ禍の影響を受けて中止せざるを得ず、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。引き続き、2021年の第31回研究大会も北海道で開催することになりました。

本年度の実行委員会は、北海道教育大学が中心となり、北海道大学と連携して担当させて頂くことになりました。開催日は、2021年10月9日(土)午前から10月10日(日)午後までとなります。開催場所は、当初実行委員が北海道教育大学釧路校教員を中心にしていたために、釧路校での開催も考えたのですが、会員の皆様の交通の便を考え、北海道大学で開催することにしました。

シンポジウムテーマは「共生社会における先住民族政策とは-アラスカと北海道の結節点」です。日本における北海道とアメリカにおけるアラスカとは共通性が多いのですが、アラスカの教育政策や具体的な教育実践活動を通じて、先進的な先住民族政策と共生社会に向けた取り組みをとらえたいと考えています。アラスカでは人口の4分の1が先住民族であり、教育政策や学校教育活動において、先住民族との共生政策を推進している先住民族研究の先進地です。

また課題研究Ⅰテーマは、「民族共生とアイデンティティ共生」をテーマにしています。課題研究Ⅱテーマは、「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」をテーマにしています。全体として共生社会・民族共生やSDGsなど、現代的・国際的な教育課題をテーマにします。

北海道は遠いですが、多くの地域で札幌直行便もあります。10月は観光としてもいい季節ですので、ぜひお越し頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

### 第31回研究大会プログラムの概要

1. 日時：2021年10月9日(土)9時半～10月10日(日)15時頃  
(時間は変動の可能性があります)
2. 場所：北海道大学(札幌市北区北8西5)

2021年 10月9日 (土)	午前	自由研究発表Ⅰ
	午後	課題研究Ⅰ 【テーマ「民族共生とアイデンティティ形成」】
		公開シンポジウム 【テーマ「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点」】
		総会
		情報交換会(懇親会)
2021年 10月10日 (日)	午前	課題研究Ⅱ 【テーマ「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」】
	午後	自由研究発表Ⅱ

### 第3回 学会賞・奨励賞候補作の募集

#### <学会賞の趣旨>

日本国際教育学会では、国際教育学のさらなる発展のため、日本国際教育学会 学会賞・日本国際教育学会奨励賞を制定し、優れた研究業績の表彰を行います。学会賞は国際教育学の顕著な研究業績に、奨励賞は学会賞に準ずる賞として、国際教育学の発展に寄与することが期待される萌芽的な研究業績に授与されます。

#### <選考と表彰>

賞の選考は「学会賞・奨励賞の選考に関する規則」に基づき、選考委員会により行われます。受賞作品は、2022年9月に開催予定の日本国際教育学会第32回大会総会で表彰します。

#### <募集要項>

- 1 対象作品：2019年8月1日から2021年8月31日までに刊行された日本国際教育学会紀要『国際教育』掲載論文及び国内外で刊行された本学会員の単著書
- 2 応募要領：応募は本学会会員の自薦・他薦によるものとする。自薦・他薦ともに「日本国際教育学会 学会賞応募票」に必要事項を記入し、当該著書3部または論文3部とともに提出すること。会員が自薦・他薦できる研究業績は、会員1名につき合わせて1点とする。
- 3 締切：2021年8月31日(火) (必着)
- 4 結果の通知：受賞者には2022年5月までに結果を通知します。
- 5 問い合わせ先/送付先：

【日本国際教育学会 学会賞・奨励賞選考委員会 事務局】

〒444-8520 愛知県岡崎市舳越町上川成 28

愛知学泉大学 家政学部 こどもの生活学科

教授 木田竜太郎 気付

(kida ■ gakusen.ac.jp) ■を@に置き換えてください。

なお、詳細につきましては、本学会ホームページをご覧ください。



## 2020年度 研究発表会のお知らせ

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により研究大会が延期となりましたが、「特別企画」として若手会員を対象とした研究発表の場を設けます。つきましては研究発表会の発表者を募集しますので、奮ってご応募ください。

開催日時：2021年3月6日（土）13時30分～16時00分 オンライン開催  
応募資格：2020年度会費納入済みの本学会員(若手研究者優先、応募者多数の場合は抽選)  
発表時間：1人30分（発表20分+質疑応答10分）  
発表形式：個人発表のみ、1人1件のみ申込可  
発表言語：日本語または英語  
参加費：無料  
申込期限：2月5日（金）17時  
発表申込：URL：<https://forms.gle/anDGjX4abfsjbmmCA>

※発表を希望せず、参加のみご希望の方は、次のURLからお申し込みください。  
参加も本学会員に限ります。<https://forms.gle/NGvZSshRv9S2BdJv8>

問い合わせ先 [jiesws2020 ■ gmail.com](mailto:jiesws2020@gmail.com) ■を@に置き換えてください

## 若手・留学生の研究交流会のお知らせ

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止により、研究活動や研究者間の交流に大きな影響が出ています。こうした現状をふまえ、若手・留学生応援企画として、オンラインによる交流の場を設けることといたします。開催の趣旨、日程、進め方は下記の通りです。ご希望の方はふるってお申込みください。

### 1. 開催日程・方法等

- ① 日 時：2021年3月13日（土）13時30分～15時00分
- ② 申込締切：3月5日（金）まで下記Googleフォームにより参加受付先着順

<https://forms.gle/S7vyPEgWa5mwjPqm9>

※なお、詳細は参加申込者にメールで後日ご案内いたします。

- ③ 実施形式：オンライン・ライブ形式（Zoom 使用）
- ④ 対 象：本学会会員（主に若手研究者および留学生）30名以内
- ⑤ 言 語：日本語

### 2. 当日のプログラム

- 全体セッション 30分  
話題提供：下田誠（国際交流担当）「コロナ禍の学生交流—その実際と課題」  
・本企画や各分科会テーマの趣旨説明を含む。
- 分科会（ブレイクアウトセッション）40分
  - I 国際的な学生交流における課題
  - II オンライン時代の授業—教えること・学ぶこと
  - III コロナ禍における学術調査
- まとめ（今後に向けて）20分

問い合わせ先 国際交流担当：下田誠（[shimoda ■ u-gakugei.ac.jp](mailto:shimoda@u-gakugei.ac.jp)）  
■を@に置き換えてください

## 2020年度 日本国際教育学会役員一覧

### 理事会

役職	氏名	所属	担当
会長	佐藤千津	国際基督教大学	
副会長	Jeffrey Gayman	北海道大学	
理事	赤尾勝己	関西大学	学会賞
同	岩崎正吾	首都大学東京（名誉教授）	紀要
同	大迫章史	東北学院大学	事務局（総務）
同	太田 浩	一橋大学	組織
同	大谷 杏	福知山公立大学	研究
同	北野秋男	日本大学	研究大会（第32回）
同	栗栖 淳	国士舘大学	規程
同	佐藤秀樹	青年海外協力協会	事務局（事務局長）
同	下田 誠	東京学芸大学	国際交流
同	Zane Diamond	Monash University	国際交流
同	玉井康之	北海道教育大学	研究大会（第31回）
同	新関ヴァッド郁代	産業能率大学	事務局（広報）
同	西山 溪	同志社大学	事務局（会計）
同	服部美奈	名古屋大学	紀要
同	前田耕司	早稲田大学	研究
同	吉田尚史	福岡女学院大学	ニューズレター

### 事務局

役職	氏名	所属
事務局長	佐藤秀樹	青年海外協力協会

### 会計監査

役職	氏名	所属
会計監査	小山晶子	東海大学
同	田中達也	釧路公立大学

各種委員会

役職	氏名	所属
紀要編集委員会 委員長	服部美奈	名古屋大学
同委員	秋庭裕子	一橋大学
同	石井由理	山口大学
同	岩崎正吾	首都大学東京（名誉教授）
同	小野寺香	奈良女子大学
同	黒田千晴	神戸大学
同	玉井 昇	獨協大学
同	森岡修一	大妻女子大学（名誉教授）
同幹事	中田有紀	東洋大学（客員研究員）
学会賞選考委員会 委員長	赤尾勝己	関西大学
同委員 （紀要編集委員兼任）	岩崎正吾	首都大学東京（名誉教授）
同	牛渡 淳	仙台白百合女子大学
同	澤田敬人	静岡県立大学
同	平岡さつき	共愛学園前橋国際大学
同幹事	木田竜太郎	愛知学泉大学
学会創立 30 周年記念論集編集委員会 委員長	佐藤千津	国際基督教大学
同委員	太田 浩	一橋大学
同	小川佳万	広島大学
同	田中潤一	関西大学
同	服部美奈	名古屋大学
同	前田耕司	早稲田大学
同幹事	新関ヴァッド郁代	産業能率大学

## 事務局だより

### 1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい

所属変更等にもない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール（jies\_jimukyoku ■ jies.gr.jp ■を@に置き換えてください）にてご一報ください。

### 2. 会費納入のお願いについて

会費納入にご協力を宜しくお願い申し上げます。なお、請求書と行き違いに既に納入済の場合はご容赦ください。

- ・郵便振替口座名義：日本国際教育学会 口座番号：00130-7-124562
- ・ゆうちょ銀行 〇一九 店（ゼロイチキユウ店）当座 0124562

### 3. 新入会員紹介

2019年度第3回理事会（2020年4月18日）、2019年度第4回理事会（2020年7月25日）、2020年度第1回理事会（2020年9月5日）、2020年度第2回理事会（2020年12月19日）で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。

会員限定公開コンテンツにつき、非掲載とします。

#### 4. ホームページリニューアルのお知らせ

学会公式ホームページの完全リニューアルを行います。学会のイメージをアピールできるデザインの刷新、学会情報へのアクセスにおける利便性の強化、そして学会内外への活動アピールと会員の研究活動支援を促進するプラットフォームの確立の3点を目的とし、2021年4月の学会ホームページ完全リニューアルに向けて、事務局を中心に準備を進めております。

新規入会や会員の学会活動情報へのアクセスに関する近年の動向として、学会ホームページが重要な情報発信のツールとなっています。それを踏まえ、海外に向けた学会のアピールおよびユニバーサルデザインの追求を図るため、英語を中心としたホームページの多言語化にも取り組んでおります。会員の皆様への学会情報の発信および研究支援のプラットフォームとして、より便利にご利用いただけることを願っております。

#### 【学会ホームページ リニューアル後デザインイメージ】



日本国際教育学会 Newsletter No. 32

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5  
JICA 地球ひろば  
発行所 (公社) 青年海外協力協会 佐藤秀樹気付  
[jies\\_jimukyoku@jies.gr.jp](mailto:jies_jimukyoku@jies.gr.jp)  
<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2021 年 2 月 14 日